

カキノヘタムシガの性フェロモンを利用した新規交信攪乱剤の開発

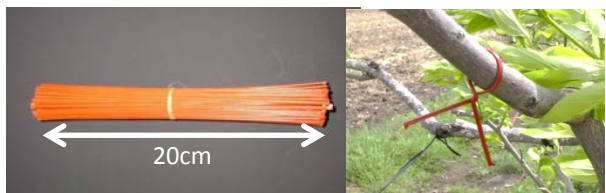
殺虫剤散布をしなくても、栽培期間を通じてカキノヘタムシガの被害を抑制できる交信攪乱剤の開発

研究開発の背景

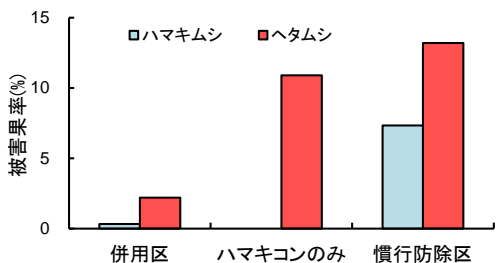
- ・カキノヘタムシガは果実を落下させるカキの最重要害虫であるが、殺虫剤による防除が困難である。また、カキほ場は住宅との混在化が進み、殺虫剤散布が行いにくくなっている。さらに、生産者の高齢化が進み、作業負担の軽減が求められている。
- ・そのため、農薬散布に依存せず、省力的で効果の高い防除法を開発する必要がある。

研究成果の内容

開発した交信攪乱剤を4月下旬～5月上旬に設置するだけで、カキノヘタムシガによる被害を慣行防除と同程度以下に抑制できる。



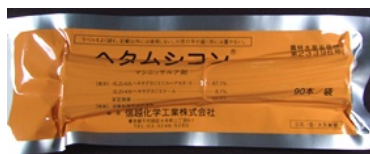
性フェロモンを含浸させたポリエチレンチューブを枝などに巻き付けて、園内に均等に設置する



他の交信攪乱剤(ハマキコン)と併用も可能



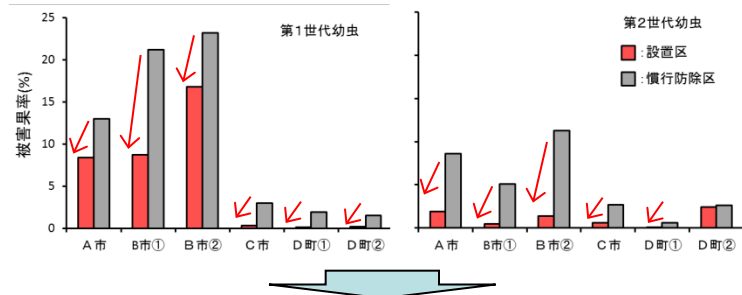
設置作業は女性でも楽々簡単(10aあたり30分程度)



農薬登録し現在販売中

導入メリット

春の設置で年間2回の発生時期の被害抑制が可能



- ・被害抑制による増収(8%)で約36,000円/10a増
- ・薬剤費は上昇するが、労働時間の削減により防除にかかる費用は約4,000円/10a減
→ **約40,000円/10aの経済効果**

さらに..

- ・年2回の殺虫剤散布を削減でき、より安全・安心なカキ生産が可能。
- ・農薬飛散がないため、住宅と混在するほ場でも利用でき、心的負担も大幅軽減。
- ・環境負荷や抵抗性発達のリスクは著しく低い。

期待される効果

- ・カキノヘタムシガに対し、農薬飛散がなく、省力的で高い防除効果が得られる。

導入をオススメする対象
全国のカキ生産者
(特に甘ガキ生産者)

開発機関: 岐阜県農業技術センター、島根県農業技術センター、福岡県農林業総合試験場果樹研究所
岐阜大学、東京農工大学、信越化学工業株式会社 【予算区分: 競争的資金、単独予算】

問い合わせ先: 岐阜県農業技術センター TEL 058-239-3135